

川端 章子

〈序論〉

研究動機・研究目的・研究方法

中学校からハンドボールを始め、今年で10年目になる。中学・高校・大学での様々な大会や練習などを通してハンドボールという競技の深さ、おもしろさを知るとともに、ハンドボールゲームにおける個人・チーム戦術の重要性を強く感じる場面が多くあった。特にシュートに関しては、フロッターとして自分もその大切さを常に感じてきた。そこで、ハンドボール競技の攻撃にみられる個人戦術のシュート（特に左利きの選手）に注目し、どのようにしてシュート運動を行っているのかに迫ることをねらいとする。

本研究では、2000年・2001年の全日本学生選手権大会、及び全日本総合選手権における、筑波大学女子ハンドボール部のビデオ撮影された試合の中から、いくつかのシュート運動を選んで観察する。その際に、優秀なプレーヤーである早船愛子選手（氷見高・筑波大卒、現在実業団シャトレゼに所属、また全日本のエース45度として活躍中）のプレーを典型例とし、モルフォロギー的考察法により明らかにしていく。

〈本論〉

第1章 ハンドボール競技の構造的特性

ハンドボールは走・跳・投の基本運動が柱であり、手でボールを操作できるという点や、ボールの大きさや重さが手頃であるという点から、ボール感覚がつかみやすいという特性がある競技である。チームスポーツ種目に属し、ゲームは国際的な統一ルールにしたがい2チームによって行われる。定められた競技時間内にあげた得点の多いチームが勝者となる。

このようなボールゲームでは、技術は相手や味方との関係の中で遂行されるので、対応技術と呼ばれる。技術は判断力的な面と動作的な面に分けて考えることができ、判断力とは、知識・理論、状況判断、意志決定などであり、動作は判断の結果として表現される。ハンドボールで具体的に考えると、技術は基礎技術と個人戦術に分けて考えることができる。シュートやパスなど個々の技術を基礎技術とすれば、その個々の技術をゲームや攻防場面のなかでいかに使いこなしていくかが個人戦術である。相手のゴールにボールを投げ入れることが攻撃の最終目的とされるハンドボールは、フィールドプレーヤーの基礎技術の中で「シュート」は大変重要である。

第2章 ゲームの運動観察とは

シュート運動をみていくには、運動観察が必要である。運動観察とは、運動経過のなかにひそむ本質的なものを見抜くことである。運動観察には運動共感（他人の運動を見ていて、それに共感すること。いわば他者観察の結果の自己観察化）に習熟していることが重要になる。

運動観察の結果を、本質的なものにするために、諸カテゴリーを用いなければならない。諸カテゴリーとは、運動の局面構造・運動リズム・運動の伝導・運動の流動・運動の弾性・運動の

先取り・運動の正確さ・運動の調和の8つである。これらのカテゴリーが相互作用し、運動が成り立っている。対象となる運動形態によって際立つカテゴリーは異なるが、シュート運動では運動の局面構造、運動リズム、運動の先取り、運動の正確さ及び調和が大きく関係している。

第3章 観察の実際

2000年・2001年の全日本学生選手権大会、及び全日本総合選手権における、筑波大学女子ハンドボール部のビデオ撮影された試合の中から、一人の優秀なプレーヤーである早船愛子選手（以下H. Aと省略する）に観察対象を絞り、そのシュート運動の観察を質的側面から行い、より詳細な考察を試みる。ビデオ撮影された試合から、H. Aのシュート運動を5つに類型化することができた。そして、それぞれから典型例を抽出し印象分析を行った。その際シュート動作そのものだけでなく、そのシュートを打つための位置取りや助走、また味方の動きや敵（DF）の状況なども含むこととする。

〈結論〉

観察・考察を行なった結果として、次のようなことがいえる。5つの典型例のシュート運動は多彩であり、とりわけタイミングという点で特徴の違いがみられる。シュート動作そのものに関しては共通していることは、“踏み込み”“踏み切り”が力強いこと、“振り上げ”脚が大きく速いこと、体重移動・運動の伝導がスムーズであること、柔軟性がみられること、スイングにスピードがあることなどである。シュートまでの成り立ちについていえることは、味方の動きや敵（DF）の状況を瞬時に判断し、つねに自他の運動の先取りをしているということである。また、いろいろな状況に応じて判断力と動作力がうまく調和している状態であることから、運動目的を実現させるための運動の選択に関しても正確であるということがいえる。

本研究は、運動を質的な面から分析し、運動の本質を見抜くことの重要性を改めて認めるものである。ハンドボールのようなボールゲームは、体操や陸上競技などとは違って、得点の多いほうが勝者となるため、最終的に結果ばかりに関心がいくという面も認められる。しかし、ゲーム中にどのような状況で攻撃が行われ、どのような形でシュートに達しているのか、などを質的に分析することが、競技力（技術的側面）の向上やゲームで競技力を発揮することにつながるのがある。そのため運動の質に目を向けるということが大変重要になる。例えば、シュート運動の指導では、どのコースに何回入ったかなどの量的分析だけでは運動のイメージは浮かばない。シュートが行なわれているその過程（位置取り、助走など）の運動を見抜き、的確に欠点やその原因を確認する。それに基づいて、新しい運動指示をだしていくのである。そのときに運動を見抜く力と同様大切なのは、運動共感の能力である。運動を単に目で追ってだけでなく、自分の運動経験を通して、他者の運動について自分が行っているものとして“中から”知覚する力を磨くことが重要になる。それが運動をより深く把握し、理解することになる。

今後はシュート運動のような技術の観察を、個人の戦術として終わらせるのではなく、チーム（集団）の戦術として、観察の幅を広げ、掘り下げていきたいと思う。

（引用・参考文献省略）